



パラリンピック



今年は、4年に1度のスポーツの祭典『パリ 2024 オリンピック』に引き続き、世界最高峰の障がい者スポーツ大会である『パリ 2024 パラリンピック』が開催されます。パラリンピックは今や、世界でも有数の大きなスポーツイベントとなっており、2012年のロンドン大会では20競技が行われ、史上最多となる164の国と地域から約4300人が参加しました。今回のパリ大会では、8月28日～9月8日の12日間に全22競技の実施が予定されています。パラリンピックに出場するには国際パラリンピック委員会の定める厳しい選考基準をクリアしなければならず、大会の舞台ではアスリートの卓越した競技パフォーマンスを観ることができます。

パラリンピック開催のきっかけ

パラリンピックのはじまりは、1948年に医師であるルードウィヒ・グッドマン博士の提唱により、ロンドン郊外のストーク・マンデビル病院内で開かれたアーチェリーの競技会だと言われています。第2次世界大戦で主に脊髄を損傷した兵士たちのリハビリテーションの一環として行われたこの大会は回を重ね、1952年に国際大会になりました。



オリンピックとの関係性

当初はリハビリのためのスポーツだったパラリンピックですが、現在はアスリートによる競技スポーツへと発展しています。出場者も「車いす使用者」から対象が広がり、もうひとつの(Parallel) + オリンピック(Olympic)という意味で、「パラリンピック」という公式名称も定められました。2000年にシドニーで開催された第11回パラリンピック競技大会で、国際オリンピック委員会と国際パラリンピック委員会が「オリンピック開催国は、オリンピック終了後にパラリンピックを開催する」などの基本事項に合意し、双方の協力関係を深めました。こうしてパラリンピックは、「もうひとつのオリンピック」として、さらなる発展を続けています。

様々な障がいのあるアスリートたちが創意工夫を凝らし限界に挑むパラリンピックは、同じルールの中で戦うための工夫が凝らされており、誰もが個性や能力を発揮し活躍できる公正な機会が与えられている場です。

そこには、多様性を認め共生社会を実現するための重要なヒントが詰まっているように思えます。パラリンピックの魅力を通じて、一人ひとりが様々な個性を持った存在として、違いを認め合う共生社会に繋がればと願います。

宇陀市人権啓発活動推進本部

2024.8

※このビラへのご意見・ご感想は
☎0745-82-2147または jinken@city.uda.lg.jp

毎月11日は「人権を確かめあう日」です